(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第4134353号
(P4134353)
(45)発行日　平成20年8月20日(2008.8.20)　(24)登録日　平成20年6月13日(2008.6.13)

(51)Int.Cl.　F I
A63F 7/02 (2006.01)　A63F 7/02 349A

請求項の数 3　(全 21 頁)

(21)出願番号　特願平8-178420
(22)出願日　平成8年6月18日(1996.6.18)
(65)公開番号　特開平10-5431
(43)公開日　平成10年1月13日(1998.1.13)
審査請求日　平成15年5月19日(2003.5.19)

(73)特許権者　000150051
株式会社竹屋
愛知県春日井市美濃町二丁目９８番地
(74)代理人　100084227
弁理士　今崎　一司
(72)発明者　竹内　正博
愛知県春日井市如意申町３丁目２番地の３
(72)発明者　若菜　芳生
愛知県春日井市稲口町３丁目１７番地の４
(72)発明者　田結　誠
東京都中野区新井４丁目４番３号
(72)発明者　竹内　英勝
愛知県春日井市東野町西二丁目１４番地の１５

最終頁に続く

(54)【発明の名称】遊技機用ユニット島の基体構造

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
複数台の遊技機を並列設置し得るユニット島の基体構造であって、
該基体構造は、その内部に補給樋が傾斜状に敷設し得る上部ユニットと、該上部ユニットを複数のスライド支柱によって支持し且つその側面に前記遊技機を配列し得る中ユニットと、該中ユニットを支持し且つその内部に回収樋を傾斜状に敷設し得る下部ユニットと、該下部ユニットを支持する土台と、からなり、
前記複数のスライド支柱は、それぞれ前記上部ユニットの下部に形成された上部レール溝及び前記下部ユニットの上部に形成された下部レール溝に沿って左右方向に移動可能であって任意の位置で固定することを可能としたことを特徴とする遊技機用ユニット島の基体構造。
【請求項２】
複数台の遊技機を並列設置し得るユニット島の基体構造であって、
該基体構造は、その内部に補給樋が傾斜状に敷設し得る上部ユニットと、該上部ユニットを複数のスライド支柱によって支持し且つその側面に前記遊技機を配列し得る中ユニットと、該中ユニットを支持し且つその内部に回収樋を傾斜状に敷設し得る下部ユニットと、該下部ユニットを支持する土台と、からなり、
前記複数のスライド支柱は、それぞれ前記上部ユニットの下部に形成された上部レール溝及び前記下部ユニットの上部に形成された下部レール溝に沿って左右方向に移動可能であって任意の位置で固定することを可能とするために、それぞれのスライド支柱の上端部

に第１の位置と該第１の位置よりも所定寸法高い第２の位置とに取付可能な上部連結部材を固定し、その上部連結部材に前記上部レール溝に沿って移動し且つ固定する機構を設けたことを特徴とする遊技機用ユニット島の基体構造。

【請求項３】

複数台の遊技機を並列設置し得るユニット島の基体構造であって、

該基体構造は、その内部に補給樋が傾斜状に敷設し得る上部ユニットと、該上部ユニットを複数のスライド支柱によって支持し且つその側面に前記遊技機を配列し得る中ユニットと、該中ユニットを支持し且つその内部に回収樋を傾斜状に敷設し得る下部ユニットと、該下部ユニットを支持する土台と、からなり、

前記複数のスライド支柱は、それぞれ前記上部ユニットの下部に形成された上部レール溝及び前記下部ユニットの上部に形成された下部レール溝に沿って左右方向に移動可能であって任意の位置で固定することを可能とし、

前記下部ユニットには、その中央部に前記回収樋を設置するための回収樋設置空間を構成する側壁板が対向して取り付けられ、該側壁板に上下方向の調節長穴を形成し、該調節長穴の任意の位置に前記回収樋が載置される回収樋載置板を支持する支持部材を横架固定し得ることを特徴とする遊技機用ユニット島の基体構造。

【発明の詳細な説明】

【０００１】

【発明の属する技術分野】

本発明は、複数台の遊技機を並列設置し得るユニット島の基体構造に関するものである。

【０００２】

【従来の技術】

従来、パチンコ機等の遊技機を設置するためのパチンコ島台を、工場等で数台（２～４台）の遊技機を設定し得るユニット島単位に分割して構成し、遊技場において、複数のユニット島を組み付けることにより、多数の遊技機を設置するパチンコ島台として完成させていた。しかして、ユニット島は、木製で構成されたり（例えば、実開平４－１２０７８９号）、あるいはスチール製で構成されたり（例えば、実開平７－２４３８７号）するが、いずれの構成においても、ユニット島の縦桟を構成する支柱が１台の遊技機の横幅間隔毎、あるいは複数台の遊技機の横幅寸法間隔毎に立設され、支柱の間隔が決められた位置となっていた。

【０００３】

【発明が解決しようとする課題】

ところが、遊技場からの注文に基づいてパチンコ島台にすべての遊技機や機器を設置したときに、パチンコ島台内の上部に設けられる重量物（トランスや配線の塊等）の位置や島台内部の玉タンクの位置が遊技場毎に異なるため、支柱の間隔もそれに応じた間隔にすることが望ましい。しかしながら、ユニット島は、大量生産を前提として構成されているため、上記のような要望に対応することができないという欠点があった。

【０００４】

本発明は、上記した事情に鑑みなされたもので、その目的とするところは、遊技場固有の支柱間隔に対しても容易に対応することができ、しかもその対応を統一した規格部品によって行うことが可能な遊技機用ユニット島の基体構造を提供することにある。

【０００５】

【課題を解決するための手段】

上記した目的を達成するために、本発明が採用した解決手段を図面を参照して説明すると、図２，図５において、複数台のパチンコ機６を並列設置し得るユニット島１の基体構造であって、該基体構造は、その内部に補給樋が傾斜状に敷設し得る上部ユニット２と、該上部ユニット２を複数のスライド支柱６０によって支持し且つその側面にパチンコ機６を配列し得る中ユニット３と、該中ユニット３を支持し且つその内部に回収樋を傾斜状に敷設し得る下部ユニット４と、該下部ユニット４を支持する土台５と、からなり、前記複

数のスライド支柱６０は、それぞれ上部ユニット２の下部に形成された上部レール溝３１及び下部ユニット４の上部に形成された下部レール溝１３２に沿って左右方向に移動可能であって任意の位置で固定することを可能とした。このように構成することにより、上部ユニット２を支持するスライド支柱６０の間隔あるいは位置を任意の位置に固定することができ、しかも、間隔を変えるために特別な部品を用意する必要もなく通常の間隔時にも使用されると同じ統一化された規格部品であるスライド支柱６０を使用することができるので、大量生産してストックしておくことができる。

【０００６】

また、図１０に示すように、スライド支柱６０のそれぞれを左右方向に移動可能にするために、前記スライド支柱６０の上端部に第１の位置である下方位置と該第１の位置よりも所定寸法高い第２の位置である上方位置とに取付可能な上部連結部材６３を固定ボルト８０及び仮止ピン７９とで固定し、その上部連結部材６３に前記上部レール溝３１に沿って移動し且つ固定する機構（挟持板８２及び固定ボルト８４）を設けることにより、通称、関西枠とか関東枠とか言われている外形寸法の異なるパチンコ機を列設するユニット島１に対しても同一の規格部品であるスライド支柱６０を使用することができる。

【０００７】

また、図６及び図１３に示すように、前記下部ユニット４には、その中央部に前記回収樋設置空間１５７を構成する側壁板１４１が対向して取り付けられ、該側壁板１４１に上下方向の調節長穴１４４を形成し、該調節長穴１４４の任意の位置に回収樋としてのアウトレール１５５が載置されるアウトレール載置板１５１を支持する支持部材１４５を横架固定し得ることにより、パチンコ島台の長さによって調節する必要のあるアウトレール１５５の傾斜角度を極めて容易に調節し且つ設定することができる。

【０００８】

【発明の実施の形態】

以下、図面を参照して本発明の実施形態について説明する。図面中、図１は、完成した状態のユニット島１を示す斜視図であり、図２は、組付けが終了したユニット島１の斜視図であり、図３は、中ユニット３，下部ユニット４，及び土台５部分の示すユニット島１の拡大部分斜視図であり、図４は、中ユニット３を構成するスライド支柱６０の斜視図であり、図５は、スライド支柱６０のスライド移動することができる構造を説明するためのユニット島１の側面図であり、図６は、パチンコ機６の下部を固定する状態の下部ユニット４部分の斜視図であり、図７は、遊技機固定部材９０の拡大斜視図であり、図８は、上部ユニット２の一端部側の部分斜視図であり、図９は、上部ユニット２の主要構成部品である上部支柱１０の斜視図であり、図１０は、上部ユニット２と中ユニット３との連結構造を示す側面図であり、図１１は、下部ユニット４と土台５との関係を示す斜視図であり、図１２は、同じく下部ユニット４と土台５との関係を示す拡大部分斜視図であり、図１３は、下部ユニット４に内蔵される回収樋としてのアウトレール１５５の取付状態を示す斜視図であり、図１４は、同じくその分解斜視図であり、図１５は、アウトレールの他の取付構造を示す斜視図であり、図１６は、土台５の分解斜視図である。

【０００９】

（１）ユニット島全体の構造

まず、本実施形態に係るユニット島１の全体の構成について、図１及び図２を参照して概略説明する。図において、本実施形態に係るユニット島１は、その内部に図示しない補給樋が傾斜状に敷設し得る上部ユニット２と、該上部ユニット２を支持し且つその側面に遊技機としてのパチンコ機６（図５参照）を配列し得る中ユニット３と、該中ユニット３を支持し且つその内部に回収樋としてのアウトレール１５５を傾斜状に敷設し得る下部ユニット４と、該下部ユニット４を支持する土台５と、から構成されている。図示のユニット島台１は、３台のパチンコ機６をそれぞれ両面に並列設置するものが示されているが、２台のパチンコ機６を並列設置するユニット島１でも良い。現状では、３台並列ユニット島１と２台並列ユニット島１とを組合せて遊技場の要望するパチンコ島台として構成している。以下、各ユニット毎に詳細に説明する。

【００１０】
（２）上部ユニット
上部ユニット２について、主として図２及び図８乃至図１０を参照して説明する。図において、上部ユニット２は、ほぼ等間隔に立設される複数の上部支柱１０と、該複数の上部支柱１０の上部左右の長手方向に沿って連結される欄間取付上部横桟３９，４０と、複数の上部支柱１０の下部中央に所定間隔を開けて長手方向に沿って連結される一対の上部レール部材２９と、複数の上部支柱１０の下部左右の長手方向に沿って連結される遊技機取付上部横桟３４と、から構成されている。なお、上部ユニット２を構成する各部材は、ほとんどスチールの打ち抜き加工等によって構成されている。
【００１１】
上部支柱１０は、図９に示すように、下部の支柱支持部材１１と、該支柱支持部材１１に溶接固着されて垂直方向に立設される一対の垂直支柱１２と、該垂直支柱１２の上端側方にネジ止め固着される欄間取付上部板１３と、一対の垂直支柱１２の間に差し渡されて止着される補給樋支持金具１４と、垂直支柱１２のほぼ中間に取り付けられ且つ後述する欄間４６及び呼出ランプ取付板４８が取り付けられる場合に必要とされる欄間取付中間部材１５と、から構成されている。
【００１２】
支柱支持部材１１は、上部支柱１０に上部ユニット２の長手方向の下部横桟である上部レール部材２９及び遊技機取付上部横桟３４とを取り付けるための部材であり、このため、その底面部には、平行状に設けられる一対の上部レール部材２９をボルト３０で止着するための上部レール取付穴１６が穿設され、また、両端部にも遊技機取付上部横桟３４をボルト３８で止着するための長孔１７が穿設されている。ここで、遊技機取付上部横桟３４を止着するための長孔１７が左右方向に長く形成されているが、これは、この遊技機取付上部横桟３４がパチンコ機６の上部を挟持支持するものであり、列設されるすべてのパチンコ機６の大まかな傾斜角度を調節する場合に後述する遊技機用上部固定ネジ５１で個々に調節するよりも一斉に調節できるように、遊技機取付上部横桟３４の出具合を調節することができるようにするためであると共に、背向するパチンコ機６間の間隔を調節するためである。
【００１３】
また、垂直支柱１２は、支柱支持部材１１の垂直状に立設された垂直部裏面にその下端が溶接固着されるものであり、断面コ字状のアングル材によって構成され、その両側辺１２ａ，１２ｂに多数の取付穴１８，１９がほぼ等間隔に穿設されている。一側辺１２ａに穿設される取付穴１８には、補給樋支持金具１４がビス２４によって止着されるものであり、他側辺１２ｂに穿設される取付穴１９には、欄間取付中間部材１５がビス２５ａによって取り付けられるものである。なお、取付穴１８，１９が多数穿設されているのは、補給樋支持金具１４及び欄間取付中間部材１５を所望の位置に取り付けるためである。
【００１４】
垂直支柱１２の上端の外側に突出するようにネジ止め固着される欄間取付上部板１３は、その上端が水平状の載置片２１となっており、その載置片２１の中心に取付穴２０が穿設されている。そして、載置片２１に欄間取付上部横桟３９，４０を載置してビス（図示しない）で取付穴２０に止着することにより、欄間取付上部横桟３９，４０を上部支柱１０に止着する。なお、図示左側の欄間取付上部横桟３９は、図示右側の欄間取付上部横桟４０の上部にネジ挿入溝４１が形成される部材を積層してビス止めされることによって構成されているが、このように欄間取付上部横桟３９，４０の構造が異なっているのは、この横桟３９，４０に取り付けられる欄間４４，４６の種類に応じた横桟３９，４０を図示しているからである。これについては、後に詳述する。
【００１５】
次に、垂直支柱１２の一側辺１２ａに穿設される取付穴１８に止着される補給樋支持金具１４は、逆Ｌ字状に形成されており、その側辺の両端に上下方向の調節用長穴２２が穿設され、その上辺に図示しない補給樋を挟持支持するためのズレ防止突片２３が突設され

ている。しかして、補給樋支持金具１４の側辺を垂直支柱１２の一側辺１２ａに当接した状態で調節用長穴２２を介して取付穴１８にビス２４を螺着することにより、補給樋支持金具１４を所望の高さ位置に掛け渡すことができ、実際に補給樋を補給樋支持金具１４に載置した状態でその傾斜角度を微調節する際には、ビス２４を若干緩めて調節用長穴２２の範囲内で補給樋支持金具１４を上下動することにより、補給樋の微妙な傾斜角度も容易に調節することができる。

【００１６】

更に、垂直支柱１２の他側辺１２ｂに穿設される取付穴１９に止着される欄間取付中間部材１５は、平板状の後端部に前後して上下それぞれ２つの取付穴２５，２６が穿設され、後方の取付穴２５を取付穴１９に一致させてビス２５ａを止着したときには、その突出量が大きくなり、前方の取付穴２６を取付穴１９に一致させてビス２５ａを止着したときには、その突出量を少なくすることができるようになっている。この突出量の大小は、前記遊技機取付上部横桟３４の突出の大小に応じて決められるものである。また、欄間取付中間部材１５の先端部の下部には、蝶番取付片２７が水平状に設けられ、該蝶番取付片２７に穿設される取付穴２８に後述する呼出ランプ取付板４８の蝶番５０が止着されるようになっている。

【００１７】

上部支柱１０の構成は、概ね上記した通りであるが、このように構成される上部支柱１０を適宜間隔（図示の場合には、１台のパチンコ機６の横幅寸法毎）を開けて上部レール部材２９、遊技機取付上部横桟３４、欄間取付上部横桟３９，４０を前述したように所定の位置にそれぞれ取り付けることにより、上部ユニット２が完成される。

【００１８】

ここで、各横桟の構成について説明すると、上部レール部材２９は、図８及び図１０に示すように、平板状の板材の裏面一側に、下面の中央部が長手方向に沿って開放する角筒状部を有しており、その角筒状部が上部レール溝３１を構成している。そして、角筒状部が形成されていない平板部に支柱支持部材１１の上部レール取付穴１６に対応する取付穴３３が穿設され、取付穴１６，３３を一致させてボルト３０を止着することにより、上部レール部材２９と所定間隔を置いて立設される上部支柱１０の支柱支持部材１１とが固着されるものである。なお、取付穴３３は、上部レール部材２９に多数形成されているので、上部支柱１０の間隔及び個数は、任意に設定することができるものである。また、上部レール部材２９は、平行状に一対設けられるので、その端部には、図８に示すように、間隔保持部材３２が挟持されるようになっている。

【００１９】

また、上部レール部材２９の外側に取り付けられる遊技機取付上部横桟３４は、断面Ｃ角筒状の筒材で構成され、その上辺に長手方向に沿って欄間下部当接立片３５が突設され、その欄間下部当接立片３５の内側に支柱支持部材１１の長孔１７に対応する取付穴３６と、パチンコ機６の外枠７の上部外面を固定する遊技機用上部固定ネジ５１を螺合する固定ネジ穴３７が多数穿設されている。欄間下部当接立片３５は、蝶番で開閉自在に設けられる欄間４４又は呼出ランプ取付板４８の下部が当接する部分である。また、長孔１７と取付穴３６とを一致させてボルト３８を止着することにより、遊技機取付上部横桟３４と所定間隔を置いて立設される上部支柱１０の支柱支持部材１１とが固着されるものである。

【００２０】

上部支柱１０の欄間取付上部板１３に取り付けられる欄間取付上部横桟３９，４０は、図示の実施形態では、異なる形状のものが示されている。図８の左側に取り付けられる欄間取付上部横桟３９は、ネジ挿入溝４１に挿入される板材（図示しない）にネジ４２が螺合され、このネジ４２を若干緩めた状態で図１に示す呼出ランプ内蔵欄間４４の蝶番４５をネジ４２に係止して締め付けることにより、呼出ランプ内蔵欄間４４を開閉自在に軸支するものである。そして、図示の呼出ランプ内蔵欄間４４は、上部ユニット２の一側面の全体を覆う大きさに形成されているので、呼出ランプ内蔵欄間４４を閉じた状態では、当

該欄間４４の下部が前記欄間下部当接立片３５に当接するようになっている。なお、このような大型の欄間４４を装着するときには、欄間取付中間部材１５は、当然のことながら必要ない。また、欄間取付上部横桟３９には、ネジ挿入溝４１の内側に係止突片４３が突設されているが、この係止突片４３は、上部ユニット２の天井面を被覆する場合の被覆板が載置されるときに滑り落ちないように係止するためのものである。

【００２１】

一方、図８の右側に取り付けられる欄間取付上部横桟４０は、図１に示す通常よく使用される長尺状の欄間４６を開閉自在に取り付けるものであり、欄間４６の蝶番４７を欄間取付上部横桟４０の取付穴（図示しない）にネジ止めするものである。また、この欄間４６は、幅寸法が短いので、その下端は、欄間取付中間部材１５の蝶番取付片２７のやや上方であり、その下方に呼出ランプ４９が設けられる呼出ランプ取付板４８が配置される。図示の場合には、呼出ランプ取付板４８も蝶番５０によって開閉自在に取り付けられるようになっているが、その蝶番５０は、前述したように、欄間取付中間部材１５の蝶番取付片２７の取付穴２８に取り付けられるようになっている。なお、従来の呼出ランプ取付板は、ビス等により完全に止着される構造であったが、図示の呼出ランプ取付板４８のように蝶番５０によって開閉自在に構成することにより、欄間４６より下方に位置する補給樋や該補給樋に設けられる分離器、あるいはパチンコ機６の上部賞球タンクの接続部分に設けられる賞球接続具部分での玉詰まりトラブルに対する処置を簡単に行うことができると共に、呼出ランプ４９の交換等も楽に行うことができる。

【００２２】

上記したように、本実施形態における上部ユニット２の上部支柱１０には、各種形状の欄間取付上部横桟３９，４０及び欄間取付中間部材１５を自由に取り付けることができるようにしたので、左右形状及び構造の異なる欄間４４，４６，４８を取り付けることができ、従来のように左右同じ欄間を取り付けていた場合に比較してパチンコ島台の装飾の自由度を向上させることができる。もちろん、左右同じ欄間取付上部横桟３９，４０を取り付けて同じ構造の欄間を取り付けても良い。なお、図示の欄間においては、呼出ランプ内蔵欄間４４は、１台のパチンコ機６の横幅寸法と同じものを示し、欄間４６は、ユニット島１に設置し得る台数のパチンコ機の横幅寸法と同じものを示したが、これらの横幅寸法は、自由に設計した長さで良い。

【００２３】

また、上記した上部ユニット２と次に説明する中ユニット３との連結構造及びパチンコ機６の支持構造については、後に詳述する。

【００２４】

（３）中ユニット

次に、中ユニット３について、主として、図２乃至図７を参照して説明する。図において、中ユニット３は、上記した上部ユニット２を支持し且つその側面にパチンコ機６を配列し得るものであると共に、前記上部ユニット２の下部に形成された上部レール溝３１及び後述する下部ユニット４の上部に形成された下部レール溝１３２に沿って左右方向に移動可能であって任意の位置で固定することが可能なスライド支柱６０を含んで構成されるものである。

【００２５】

そこで、まず、スライド支柱６０の構造について図４を参照して説明すると、スライド支柱６０は、側面がほとんど開放した平板角筒状のスチール部材によって構成されており、その下部両側に下部ユニット４と連結するための下部固定片６１が溶接固着され、その前後面に図示しない紙幣・コイン搬送機を載置支持する搬送機支持部材６２が止着され、上端に上部ユニット２と連結するための上部連結部材６３が設けられて構成されている。

【００２６】

スライド支柱本体６０は、前述したように、側面がほとんど開放した平板角筒状のスチール部材によって構成されており、その両側前後面に搬送機支持部材６２を任意の高さ位置に取り付けるために多数の取付穴６４が穿設されている。この取付穴６４は、前後のい

ずれか一方の面だけに構成しても良いが、前後面に形成することにより、全く対称となるためにいちいち向きを考えながら下部ユニット４又は上部ユニット２に装着しなくても良いので、組立を素早く行うことができる。また、スライド支柱本体６０の上部の一側側面には、上部連結部材６３を固定ボルト８０で止めるための取付穴６６が穿設され、その近傍の両側面には、上部連結部材６３を仮止めするための仮止めピン７９が挿通される差込穴６５が所定の間隔離れて上下に２個ずつ穿設されている。なお、スライド支柱本体６０の中程一側面は、打ち抜き加工されることなく補強連結板６７で連結されたままとなってスライド支柱６０の全体の強度を高めている。

【００２７】

スライド支柱本体６０の下部両側に溶接固着される下部固定片６１には、止め穴６８が形成され、この止め穴６８に螺着される固定ボルト７１の先端に挟持板６９の止め穴７０が螺合されることとなる。このように、固定ボルト７１によって下部固定片６１と挟持板６９とが対向した状態となるが、この対向した状態で下部ユニット４の後述する下部レール部材１２３の下部レール溝１３２に挟持板６９が挿入され、その挿入された状態で固定ボルト７１を締め付けることにより、下部レール部材１２３が下部固定片６１と挟持板６９とに挟持されてスライド支柱６０の下部が下部ユニット４の任意の位置で強固に連結固定されるようになっている。

【００２８】

また、搬送機支持部材６２は、逆Ｌ字状に形成され、その前面側面に取付長穴７２が形成されて、ビス７３で前記取付穴６４に止着することにより、スライド支柱本体６０に取り付けられる。その取り付けられた状態では、上辺の載置片７４が水平状となるので、図示しない紙幣・コイン搬送装置を載置片７４の上に載置することにより、該装置がスライド支柱６０に装着される。なお、取付長穴７２によってその取付位置の微調整を簡単に行うことができる。

【００２９】

スライド支柱本体６０の上部に設けられる上部連結部材６３は、Ｔ字状に形成され、その垂直部は、スライド支柱本体６０の上部が貫入される嵌入部７５として構成され、その水平部が後述する挟持板８２と協働してスライド支柱６０を上部ユニット２に連結するための固定部７６となっている。嵌入部７５の両端部の下部に前記差込穴６５に対応するピン挿通穴７７が穿設されると共に、前記取付穴６６に対応する位置に上下方向の固定長穴７８が穿設されている。しかして、上部連結部材６３の嵌入部７５をスライド支柱６０の上端に差し込み、固定長穴７８と取付穴６６とを一致させた状態で取付穴６６に固定ボルト８０を螺合することにより、上部連結部材６３をスライド支柱６０に取り付けることができる。ただし、固定ボルト８０を強く締着しないときには、固定長穴７８によって上部連結部材６３が上下に移動可能となっている。

【００３０】

しかして、差込穴６５が上下方向に所定の間隔を持って形成されているので、ピン挿通穴７７を下部の差込穴６５に一致させて仮止ピン７９を差し込んで該仮止ピン７９が脱落しないように固定ピン８５を仮止ピン７９の端部に差し込むことにより、上部連結部材６３の取り付け位置を低い位置で確定し、その後、固定ボルト８０を強く締着することにより、低い位置での上部連結部材６３の取付が完了する。一方、固定ボルト８０を緩め且つ仮止ピン７９を引き抜き、上部連結部材６３を上方に移動させて上部の差込穴６５にピン挿通穴７７を一致させて仮止ピン７９を差し込み固定ピン８５で止めることにより、上部連結部材６３の取り付け位置を高い位置で確定し、その後、固定ボルト８０を強く締着することにより、高い位置での上部連結部材６３の取付が完了する。

【００３１】

上記のように上部連結部材６３の上下方向の固定位置を変えることができるようにした理由は、ユニット島１に列設されるパチンコ機６の外枠７の寸法は、古くから寸法の若干大きな関西枠と小さな関東枠という２種類の枠があり、従来は、ユニット島の大きさを大きな関西枠に対応するように形成しておき、小さな関東枠のパチンコ機を列設した場合に

は、隙間を埋めるために埋め込み部材を埋め込んで対処していた。しかしながら、本実施形態のように、上部連結部材６３の取り付け高さを変えることができる場合には、少なくとも高さ方向の埋め込み部材を用意する必要はなく、簡単に関東枠用のユニット島と関西枠用のユニット島とに相互に変更することができる。

【００３２】

なお、関東枠と関西枠との寸法の相違は、高さ方向だけでなく横幅方向においても相違するが、本実施形態において横幅寸法を変化させる場合には、横幅寸法として関西枠に合致する大きさで形成しておき、関東枠を列設する場合には、側部にだけ埋め込み部材を埋め込むようにするか、あるいは、最初から関東枠用と関西枠用の上部ユニット２及び下部ユニット４を用意しておき、それぞれの上部・下部ユニット２，４を本実施形態のスライド支柱６０で連結するかのいずれかである。いずれの方法であっても、少なくともスライド支柱６０は、統一化された規格部品として使用することができる。また、関東枠用あるいは関西枠用の専用の上部・下部ユニット２，４においても、垂直方向の部材は、統一化された規格部品として使用することができ、水平方向の部材だけを関東枠用あるいは関西枠用として用意すれば良い。

【００３３】

ところで、上記のようにしてスライド支柱６０の上部に取り付けられた上部連結部材６３の固定部７６の四隅には、止め穴８１が形成され、この止め穴８１に下方から螺着される固定ボルト８４の先端に挟持板８２の止め穴８３が螺合されて挟持板８２が前記挟持板６９と同じ向きとなる。このように、固定ボルト８４によって固定部７６と挟持板８２とが対向した状態となるが、この対向した状態で上部ユニット２の前記上部レール部材２９の上部レール溝３１に挟持板８２が挿入され、その挿入された状態で固定ボルト８４を締め付けることにより、上部レール部材２９が固定部７６と挟持板８２とに挟持されてスライド支柱６０の上部が上部ユニット２の任意の位置で強固に連結固定されるようになっている。

【００３４】

中ユニット３の主たる構成部材は、上記したスライド支柱６０だけであるが、本実施形態の場合には、スライド支柱６０の下部が固定される下部レール溝１３２にパチンコ機６の下部を固定し且つパチンコ機６から排出されるアウト玉を回収樋（図示ではアウトレール１５５）に放出するアウト玉箱１０６が設けられる遊技機固定部材９０があるので、これについて図６及び図７を参照して説明する。

【００３５】

遊技機固定部材９０は、階段状に形成された固定板９１に集約して構成されている。即ち、固定板９１の固定片部９２の両端には、パチンコ機６を固定するための締付金具１０１が取り付けられる固定腕９６が逆Ｌ字状に延設され、その固定腕９６の基部に対応する固定片部９２に止め長穴９７が形成され、その止め長穴９７に挿通される固定ボルト１００の先端に挟持板９８の止め穴９９が螺合される。このように、固定ボルト１００によって固定片部９２と挟持板９８とが対向した状態となるが、この対向した状態で下部ユニット４の下部レール部材１２３の下部レール溝１３２に挟持板９８が挿入され、その挿入された状態で固定ボルト１００を締め付けることにより、下部レール部材１２３が固定片部９２と挟持板９８とに挟持されて遊技機固定部材９０が下部ユニット４の任意の位置で強固に連結固定されるようになっている。なお、止め長穴９７が前後方向に長く形成されているので、遊技機固定部材９０を前後方向に位置調節でき、それによってパチンコ機６の傾斜角度の調節等を行うことができる。

【００３６】

一方、固定板９１のクランク状に立ち上った載置取付片部９３の端部には、取付ネジ９４が立設され、該取付ネジ９４の内側に誘導片９５が取り付けられている。取付ネジ９４及び誘導片９５は、アウト玉箱１０６を取り付けるためのものであり、アウト玉箱１０６の両サイドに突設形成される取付片部１０７を誘導片９５に嵌め込みながら載置取付片部９３に載置すると、取付片部１０７に形成された取付穴１０８から前記取付ネジ９４の頭

部が突出し、その突出した取付ネジ９４の頭部に蝶ナット１０９を螺合してアウト玉箱１０６を固定板９１に装着することができる。なお、アウト玉箱１０６の玉誘導通路の末端には、周知のように玉計数器１１０が取り付けられている。また、クランク状に立ち上がった載置取付片部９３は、後述するカウンター台１２４の後端部を受け入れるようになっている。

【００３７】

また、前記固定腕９６の先端部には、締付金具１０１が設けられるが、この締付金具１０１は、固定腕９６に螺合される螺合ネジ１０２と、該螺合ネジ１０２の上端部に固着される摘み１０３と、螺合ネジ１０２の下端部に回転自在に止着される押圧金具１０４とから構成されている。なお、摘み１０３の中心には、螺合ネジ１０２の回転をドライバでも行えるように十字ネジ１０５が形成されている。

【００３８】

しかして、上記のように構成される締付金具１０１においては、摘み１０３を回転せしめることにより、パチンコ機６の外枠７の下部内側面に押圧金具１０４を押圧してパチンコ機６の下部をユニット島１に固定することができ、特に図示の実施形態の押圧金具１０４のように、先端がギザギザ状の爪となっている場合には、一点で押圧するものより、その固定状態を長期間にわたって安定的に保持し得るものである。

【００３９】

以上のように、パチンコ機６から排出されるパチンコ玉を回収して回収樋設置空間１５７に放出するアウト玉箱１０６を取付ネジ９４に取着し得ると共にパチンコ機６の下部を固定する締付金具１０１が設けられる遊技機固定部材９０を、前記下部レール溝１３２に左右方向に移動可能であって任意の位置で固定可能とすることにより、パチンコ機６の装着に必要とされる締付金具１０１とアウト玉箱１０６との取付及びその位置設定をきわめて簡単に行うことができる。なお、固定板９１の両端に突設される一対の固定腕９６の間隔をパチンコ機６の外枠の内側寸法よりもやや小さく形成した場合には、製造者の異なるすべてのパチンコ機６に対して適用することができ、パチンコ機６の新台入れ替え時の固定作業を迅速且つ簡単に行うことができる。また、固定板９１を短く形成し、その固定板９１に１つの固定腕９６と１つの取付ネジ９４とを設け、そのような固定板９１を１台のパチンコ機６に２個ずつ使用しても良い。このように構成することにより、更にフレキシブルに各種の遊技機に対応させることができるものである。また、本実施形態では、遊技機固定部材９０がパチンコ機６を固定する機能とアウト玉箱１０６とを固定する機能を有するものを示したが、いずれか一方の機能を有するように構成しても良い。

【００４０】

（４）下部ユニット

次に、下部ユニット４について、図３及び図１１乃至図１５を参照して説明する。図において、下部ユニット４は、ほぼ等間隔に立設される複数（図示の実施形態では４個）の逆袴状の下部支柱１２０と、該複数の下部支柱１２０の下辺部に所定間隔を開けて長手方向に沿って連結される一対の下部横桟１２１と、複数の下部支柱１２０の二股のそれぞれ上辺部の長手方向に沿って連結される上部横桟１２２と、内側の上部横桟１２２の上部に載置固定される下部レール部材１２３と、下部レール部材１２３の前方であって上部横桟１２２に止着されるカウンター台１２４と、下部支柱１２０の下部両側に取り付けられる腰板装着部材１２５と、から構成されている。なお、下部ユニット４を構成する各部材は、ほとんどスチールの打ち抜き加工等によって構成されている。

【００４１】

下部支柱１２０は、上記したように逆袴状（逆台形状）となっており、その正面形状におけるほぼ中央の長方形状の打ち抜き部が後述する回収樋設置空間１５７を構成するものである。また、下部ユニット４を構成する複数の下部支柱１２０のうち、図１１に示すように、一端に位置する下部支柱１２０には、外側に突出する連結突片１２６と連結止め穴１２８とが形成され、他端に位置する下部支柱１２０には、連結突片１２６が係合し得る連結開口１２７と連結止め穴１２８とが対応形成されている。しかして、２つのユニット

島を連結する際に、一方のユニット島の連結突片１２６を他方のユニット島の連結開口１２７に挿入し得るように一方のユニット島をスライド移動して係合せしめて２つのユニット島を連結し得るようにしたことにより、簡単にユニット島１同士を連結することができる。なお、２つのユニット島を連結した状態で連結止め穴１２８にビスあるいはボルトを螺着することにより、左右のずれがなくなり、正確に連結されることとなる。

【００４２】

また、下部支柱１２０は、その外周縁の全体に渡って一側に直角に曲折されており、外側曲折片の下部には、腰板装着部材１２５をビス止めするための止め穴１２９が穿設され、また、内側曲折片（長方形状の打ち抜き部分）の上下には、後述する側壁板１４１をビス止めするための止め穴１３０が穿設されている。

【００４３】

下部支柱１２０の下辺両端部に平行状に溶接固着される下部横桟１２１は、上面の中央部が開放した断面Ｃ角筒状のアングル材で構成されており、この下部横桟１２１が後述する土台５に載置固定されるものである。

【００４４】

下部支柱１２０の二股状のそれぞれの上辺部の長手方向に沿って連結される一対の上部横桟１２２には、カウンター台１２４をビス止めするための止め穴１３１が形成されている。この止め穴１３１は、一対の上部横桟１２２の同じ位置に前後するように形成されるものであるが、これは、カウンター台１２４を外側の上部横桟１２２にも内側の上部横桟１２２のいずれにも取り付け得るようにするためである。なお、上部横桟１２２と下部支柱１２０との間の連結は、溶接によって行われている。

【００４５】

また、上部横桟１２２の内側には、上方が開放した断面Ｃ字状の下部レール部材１２３が内側の上部横桟１２２の内側端上部に溶接固着されているが、この下部レール部材１２３に前記スライド支柱６０の挟持板６９が挿入されるようになっている。

【００４６】

また、カウンター台１２４は、パチンコ機６をユニット島１に設置した状態でパチンコ機６の下方から前方に突出するものであり、図示の実施形態においては、幅方向の上面に僅かな段差があるように形成され、その高段部がパチンコ機６を載置する遊技機載置部１３３として構成され、低段部がカウンター台として使用し得るカウンター部１３４となっている。また、カウンター台１２４の後方部には、適宜間隔をおいて、その上面に大きな楕円形状の操作穴１３６が形成され、その操作穴１３６の下方に小さな楕円形状の取付長穴１３５が形成されている。この操作穴１３６及び取付長穴１３５は、カウンター台１２４を前記上部横桟１２２に止着するための開口であり、その作業は、カウンター台１２４を上部横桟１２２の上部に載置した状態で取付長穴１３５と止め穴１３１とを一致させてビス（図示しない）を立てて操作穴１３６からドライバ工具等で該ビスを回して止着する。この場合、取付長穴１３５の一致させる止め穴１３１として、外側の上部横桟１２２の止め穴１３１を選択した場合には、カウンター台１２４の突出量を大きくすることができ、逆に内側の上部横桟１２２の止め穴１３１と一致させた場合には、カウンター台１２４の突出量を通常の状態とすることができる。なお、通常の状態においても、取付長穴１３５によってカウンター台１２４の突出量を調節（例えば、３０ｍｍ程度）することが可能である。

【００４７】

また、カウンター台１２４を上部横桟１２２に止着する際には、図３に示すように、腰板１５６（図１参照）の上端縁が挿入される腰板装着レール部材１３８がカウンター台１２４と上部横桟１２２との間に挟持されるようになっている。更に、カウンター台１２４の遊技機載置部１３３には、パチンコ機６の横幅寸法に相当する間隔をおいて間仕切り部材１３７がネジ止め固着されている。この間仕切り部材１３７の上部には、玉貸機（図示しない）が載置されるものである。

【００４８】

複数の下部支柱１２０の下部側方に止着される腰板装着部材１２５は、その上端部を前記止め穴１２９に取付ネジ１４０で止着するだけで取り付けられるものであり、腰板装着部材１２５の下端は、下部横桟１２１の側面にただ単に当接しているだけである。また、腰板装着部材１２５には、腰板１５６の下端縁が挿入される装着レール部１３９が形成されている。

【００４９】

以上説明した下部支柱１２０と下部横桟１２１及び上部横桟１２２等との連結接続によって枠組み構成される下部ユニット４の中央部には、直方体状の空間ができているが、その空間の内側両面に図３に示すように、側壁板１４１を止着することにより回収樋設置空間１５７が構成され、その内部に回収樋としてのアウトレール１５５が傾斜状に敷設される。しかして、このアウトレール１５５が傾斜状に敷設される構造について図１１及び図１３乃至図１５を参照して説明すると、側壁板１４１の四隅に穿設される取付穴１４２を、図１１に示す下部支柱１２０の止め穴１３０に合致させて取付ネジ１４３を螺着することにより、側壁板１４１が下部支柱１２０の内側側壁に止着される。

【００５０】

側壁板１４１の一側部には、上下方向に長い調節長穴１４４が形成され、該調節長穴１４４の任意の位置に支持部材１４５が取り付けられる。即ち、図１４に示すように、支持部材１４５の両端部が直角に曲折されて側壁板１４１の内面と当接する当接片１４６となっており、その当接片１４６の中心に穿設される止め穴１４７を調節長穴１４４に一致させて側壁板１４１の外側から固定ネジ１４８で螺着することにより、支持部材１４５を側壁板１４１の任意の高さ位置に固定することができる。そして、支持部材１４５の上面は、ほぼ水平状の載置片１４９となっており、その載置片１４９の両端部に止め穴１５０が形成されている。しかして、各側壁板１４１の一端部に差し渡される支持部材１４５の高さ位置をほぼ傾斜状となるように高さ位置調節した後、アウトレール載置板１５１を支持部材１４５に載置し、左右両端縁に形成される取付片１５２の止め穴１５３を支持部材１４５の止め穴１５０に一致させて取付ネジ１５４を止着し、一応の傾斜角度を出し、その後、微調整を行うために固定ネジ１４８を緩めて調節した後再度固定ネジ１４８を締め、所望の傾斜角を得た後に、簀の子状のアウトレール１５５をアウトレール載置板１５１上に載置することにより、回収樋が完成する。

【００５１】

なお、アウトレール１５５には、多量の玉によって相当な荷重がかかるので、支持部材１４５が荷重によってずれ落ちてしまう虞もあり、そのずれ落ちを極力少なくするために、図１５に示すように、長さの短い調節長穴１４４を多数形成しておき、支持部材１４５の取付位置に対応した調節長穴１４４を選択するようにしても良い。

【００５２】

上記したように、下部ユニット４の中央部に回収樋設置空間１５７を構成する側壁板１４１が対向して取り付けられ、該側壁板１４１に上下方向の調節長穴１４４を形成し、該調節長穴１４４の任意の位置に回収樋としてのアウトレール１５５が載置されるアウトレール載置板１５１を支持する支持部材１４５を横架固定し得ることにより、パチンコ島台の長さによって調節する必要のあるアウトレール１５５の傾斜角度を極めて容易に調節し且つ設定することができる。

【００５３】

（５）土台

土台５について、図１１及び図１６を参照して説明する。図において、土台５は、ユニット島１全体を支持するものであり、アンカーボルト１７６によって固定される土台板１６０と、該土台板１６０に対して高さ位置を調節し得るように固定され且つ前記下部ユニット４の下部横桟１２１を搭載するユニット搭載台１６７と、該ユニット搭載台１６７との間で前記下部横桟１２１を挟持するように取着されるユニット固定部材１７１と、から構成されている。

【００５４】

土台板１６０は、床面に当接する水平部分からほぼ直角に立設される立部１６１を有し、水平部分の両端部には、アンカーボルト１７６を差し込むためのアンカーボルト取付長孔１６５が開設され、また、立部１６１の近接する位置に雌ネジ棒１６２が立設されている。雌ネジ棒１６２には、頭部に搭載部１６４を有する搭載ネジ１６３が螺合されている。また、立部１６１の両端部には、止めネジ穴１６６が形成され、該止めネジ穴１６６にユニット搭載台１６７の調節長穴１６８を貫通する固定ボルト１６９が螺合されるようになっている。

【００５５】

ユニット搭載台１６７は、ほぼＴ字状に形成され、その垂直辺に縦長な調節長穴１６８が形成され、該調節長穴１６８を固定ボルト１６９が貫通している。また、水平辺は、下部ユニット４の下部横桟１２１が載置されるようになっていると共に、その載置した位置の内側の位置に止めネジ穴１７０が形成されている。この止めネジ穴１７０は、ユニット固定部材１７１に形成される貫通穴１７４を貫通したボルト１７５が螺合されるものである。また、水平部の長さは、前記搭載ネジ１６３の立設位置よりも長くなるように設計されている。

【００５６】

ユニット固定部材１７１は、下部ユニット４の下部横桟１２１の外のり間隔寸法とほぼ同じ長さの平板と、該平板と直角状に下向きに曲折された下部横桟１２１の内のり間隔寸法とほぼ同じ長さの間隔保持片部１７２とが一体的に構成された板材であり、間隔保持片部１７２から外側に突出した平板部が押え片部１７３として下部横桟１２１を押えるものである。また、押え片部１７３の内側には、貫通穴１７４が穿設され、その貫通穴１７４にボルト１７５が挿入されるようになっている。

【００５７】

上記のように構成される土台５に下部ユニット４を固定するためには、土台板１６０とユニット搭載台１６７とが固定ボルト１６９によって組み付けられたものに対して、まず、土台板１６０のアンカーボルト取付長孔１６５にワッシャー１７７を介してアンカーボルト１７６を挿入して土台板１６０を床面に固定し、その状態で固定ボルト１６９を緩めてユニット搭載台１６７の裏面が搭載ネジ１６３の搭載部１６４に当接した状態としておく。そのような状態で、下部ユニット４（場合によっては、上部ユニット２と中ユニット３と下部ユニット４とを組み付けたもの）の下部横桟１２１をユニット搭載台１６７の水平部に載置し、その載置した状態で搭載ネジ１６３を回転せしめて（搭載部１６４の下部にある六角ナット部をスパナ等で回転せしめる）高さ調節し、調節後、固定ボルト１６９を締め付ける。その後、ユニット固定部材１７１の間隔保持片部１７２を下部横桟１２１の間隔内に挿入して押え片部１７３を下部横桟１２１の上面に載置し、ボルト１７５を貫通穴１７４から差し込んで回転することにより、ボルト１７５が止めネジ穴１７０に螺合して下部横桟１２１がユニット搭載台１６７とユニット固定部材１７１とに挟持されて下部ユニット４が土台５に固定される。

【００５８】

そして、本実施形態においては、ユニット搭載台１６７が高さ調節した位置で土台板１６０に螺合される搭載ネジ１６３の搭載部１６４によって下方から支持されることにより、重量物であるパチンコ島台を止めネジ穴１６６と調節長穴１６８とを固定ボルト１６９で側方から締め付けた場合に比べて、ユニット搭載台１６７が下方にずれ落ちたりすることがなく、また、下部ユニット４の土台５への取付もユニット固定部材１７１で下部横桟１２１を挟持するだけであるため、下部ユニット４に固定するための加工を施したりする必要がないことに加えて、下部横桟１２１のある位置であれば、どの位置でも土台５で支持することができるという利点がある。

【００５９】

以上、本実施形態に係るユニット島の基体構造について説明してきたが、本実施形態によれば、図２，図５に示すように、複数台のパチンコ機６を並列設置し得るユニット島１の基体構造であって、該基体構造は、その内部に補給樋が傾斜状に敷設し得る上部ユニッ

ト２と、該上部ユニット２を支持し且つその側面にパチンコ機６を配列し得る中ユニット３と、該中ユニット３を支持し且つその内部に回収樋を傾斜状に敷設し得る下部ユニット４と、該下部ユニット４を支持する土台５と、からなり、前記中ユニット３は、上部ユニット２の下部に形成された上部レール溝３１及び下部ユニット４の上部に形成された下部レール溝１３２に沿って左右方向に移動可能であって任意の位置で固定することが可能なスライド支柱６０を含んで構成した。このように構成することにより、上部ユニット２を支持する支柱６０の間隔あるいは位置を任意の位置に固定することができ、しかも、間隔を変えるために特別な部品を用意する必要もなく通常の間隔時にも使用されると同じ統一化された規格部品であるスライド支柱６０を使用することができるので、大量生産してストックしておくことができる。

【００６０】

また、図１０に示すように、前記スライド支柱６０の上端部に第１の位置である下方位置と該第１の位置よりも所定寸法高い第２の位置である上方位置とに取付可能な上部連結部材６３を固定ボルト８０及び仮止ピン７９とで固定し、その上部連結部材６３に前記上部レール溝３１に沿って移動し且つ固定する機構（挟持板８２及び固定ボルト８４）を設けることにより、通称、関西枠とか関東枠とか言われている外形寸法の異なるパチンコ機を列設するユニット島１に対しても同一の規格部品であるスライド支柱６０を使用することができる。

【００６１】

また、図６に示すように、パチンコ機６から排出されるパチンコ玉を回収して回収樋設置空間１５７に放出するアウト玉箱１０６を取付ネジ９４に取着し得ると共にパチンコ機６の下部を固定する締付金具１０１が設けられる遊技機固定部材９０を、前記下部レール溝１３２に左右方向に移動可能であって任意の位置で固定可能とすることにより、パチンコ機６の装着に必要とされる締付金具１０１とアウト玉箱１０６との取付及びその位置設定をきわめて簡単に行うことができる。

【００６２】

また、図１２及び図１６に示すように、前記土台５は、アンカーボルト１７６によって固定される土台板１６０と、該土台板１６０に対して高さ位置を調節し得るように固定され且つ前記下部ユニット４の下部横桟１２１を搭載するユニット搭載台１６７と、該ユニット搭載台１６７との間で前記下部横桟１２１を挟持するように取着されるユニット固定部材１７１と、からなり、前記ユニット搭載台１６７は、高さ調節した位置で前記土台板１６０に螺合される搭載ネジ１６３の搭載部１６４によって下方から支持されることにより、重量物であるパチンコ島台を止めネジ穴１６６と調節長穴１６８とを固定ボルト１６９で側方から締め付けた場合に比べて、ユニット搭載台１６７が下方にずれ落ちたりすることがなく、また、下部ユニット４の土台５への取付もユニット固定部材１７１で下部横桟１２１を挟持するだけであるため、下部ユニット４に固定するための加工を施したりする必要がないことに加えて、下部横桟１２１のある位置であれば、どの位置でも土台５で支持することができる。

【００６３】

また、図６及び図１３に示すように、前記下部ユニット４には、その中央部に前記回収樋設置空間１５７を構成する側壁板１４１が対向して取り付けられ、該側壁板１４１に上下方向の調節長穴１４４を形成し、該調節長穴１４４の任意の位置に回収樋としてのアウトレール１５５が載置されるアウトレール載置板１５１を支持する支持部材１４５を横架固定し得ることにより、パチンコ島台の長さによって調節する必要のあるアウトレール１５５の傾斜角度を極めて容易に調節し且つ設定することができる。

【００６４】

更に、図１１に示すように、前記下部ユニット４の所定間隔毎に立設される下部支柱１２０のうち、一端に位置する下部支柱１２０には、外側に突出する連結突片１２６と連結止め穴１２８とを形成し、他端に位置する下部支柱１２０には、前記連結突片１２６が係合し得る連結開口１２７と連結止め穴１２８とを対応形成し、２つのユニット島を連結す

る際に、一方のユニット島の連結突片１２６を他方のユニット島の連結開口１２７に挿入し得るように一方のユニット島をスライド移動して係合せしめ、その係合状態で一致している連結止め穴１２８にビスを螺着することにより、２つのユニット島を連結し得るようにしたことにより、簡単且つ正確にユニット島１同士を連結することができる。

【００６５】

なお、上記した実施形態では、設置される遊技機としてパチンコ機を示したが、パチンコ機とほぼ同じ寸法を有するスロットマシンタイプの遊技機を列設するユニット島に本実施形態のユニット島を適用しても良い。

【００６６】

【発明の効果】

以上、説明したところから明らかなように、本発明においては、スライド支柱を上部ユニットの下部に形成された上部レール溝及び下部ユニットの上部に形成された下部レール溝に沿って左右方向に移動可能であって任意の位置で固定することを可能としたので、上部ユニットを支持する支柱の間隔あるいは位置を任意の位置に固定することができ、しかも、間隔を変えるために特別な部品を用意する必要もなく通常の間隔時にも使用されると同じ統一化された規格部品であるスライド支柱を使用することができるので、大量生産してストックしておくことができる。

【００６７】

また、前記スライド支柱の上端部に第１の位置と該第１の位置よりも所定寸法高い第２の位置とに取付可能な上部連結部材を固定し、その上部連結部材に前記上部レール溝に沿って移動し且つ固定する機構を設けることにより、通称、関西枠とか関東枠とか言われている外形寸法の異なるパチンコ機を列設するユニット島に対しても同一の規格部品であるスライド支柱を使用することができる。

【００６８】

また、前記下部ユニットには、その中央部に前記回収樋を設置するための回収樋設置空間を構成する側壁板が対向して取り付けられ、該側壁板に上下方向の調節長穴を形成し、該調節長穴の任意の位置に回収樋が載置される回収樋載置板を支持する支持部材を横架固定し得ることにより、パチンコ島台の長さによって調節する必要のある回収樋の傾斜角度を極めて容易に調節し且つ設定することができる。

【図面の簡単な説明】

【図１】　完成した状態のユニット島を示す斜視図である。

【図２】　組付けが終了したユニット島の斜視図である。

【図３】　中ユニット，下部ユニット，及び土台部分の示すユニット島の拡大部分斜視図である。

【図４】　中ユニットを構成するスライド支柱の斜視図である。

【図５】　スライド支柱のスライド移動することができる構造を説明するためのユニット島の側面図である。

【図６】　パチンコ機の下部を固定する状態の下部ユニット部分の斜視図である。

【図７】　遊技機固定部材の拡大斜視図である。

【図８】　上部ユニットの一端部側の部分斜視図である。

【図９】　上部ユニットの主要構成部品である上部支柱の斜視図である。

【図１０】　上部ユニットと中ユニットとの連結構造を示す側面図である。

【図１１】　下部ユニットと土台との関係を示す斜視図である。

【図１２】　同じく下部ユニットと土台との関係を示す拡大部分斜視図である。

【図１３】　下部ユニットに内蔵される回収樋としてのアウトレールの取付状態を示す斜視図である。

【図１４】　同じくその分解斜視図である。

【図１５】　アウトレールの他の取付構造を示す斜視図である。

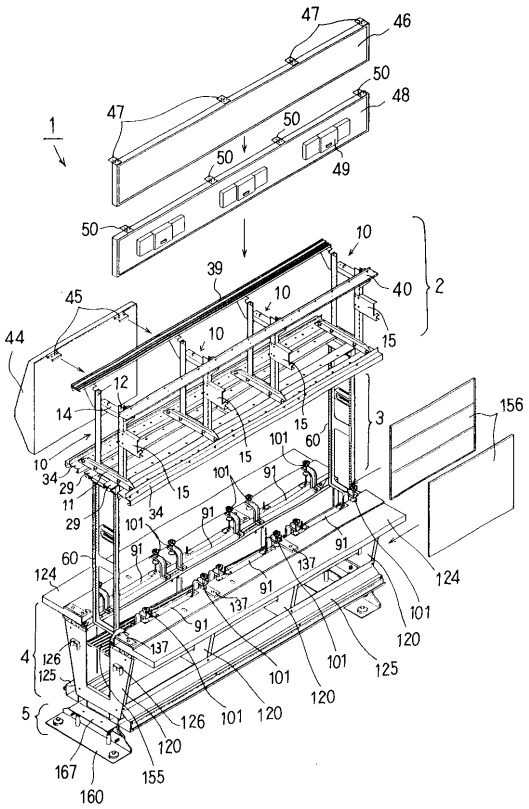
【図１６】　土台の分解斜視図である。

【符号の説明】

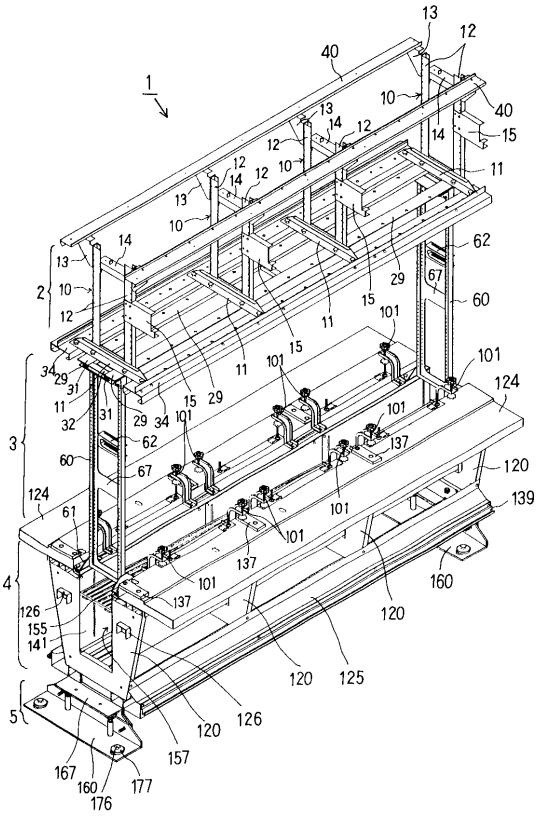
１　ユニット島
２　上部ユニット
３　中ユニット
４　下部ユニット
５　土台
６　パチンコ機（遊技機）
７　外枠
１０　上部支柱
２９　上部レール部材
３１　上部レール溝
６０　スライド支柱
６１　下部固定片
６３　上部連結部材
６５　差込穴
６９　挟持板
７１　固定ボルト
７６　固定部
７８　固定長穴
７９　仮止ピン
８０　固定ボルト
８２　挟持板
８４　固定ボルト
８５　固定ピン
９０　遊技機固定部材
９１　固定板
９４　取付ネジ
９６　固定腕
９８　挟持板
１００　固定ボルト
１０１　締付金具
１０４　押圧金具
１０６　アウト玉箱
１２０　下部支柱
１２１　下部横桟
１２２　上部横桟
１２３　下部レール部材
１２４　カウンター台
１２６　連結突片
１２７　連結開口
１２８　連結止め穴
１３２　下部レール溝
１４１　側壁板
１４４　調節長穴
１４５　支持部材
１５１　アウトレール載置板
１５５　アウトレール
１６０　土台板
１６３　搭載ネジ
１６７　ユニット搭載台
１７１　ユニット固定部材

１７６　アンカーボルト

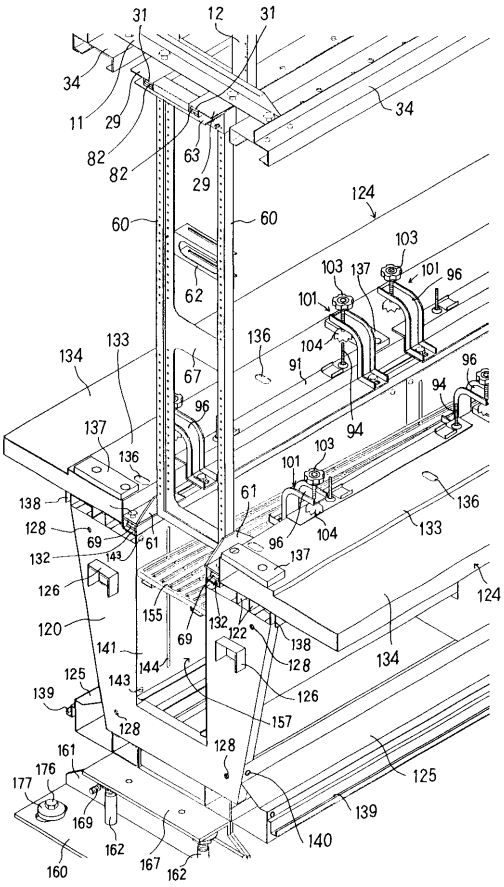
【図１】



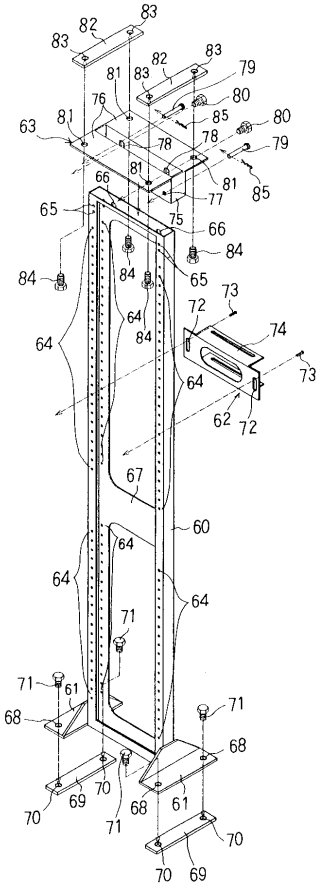
【図２】



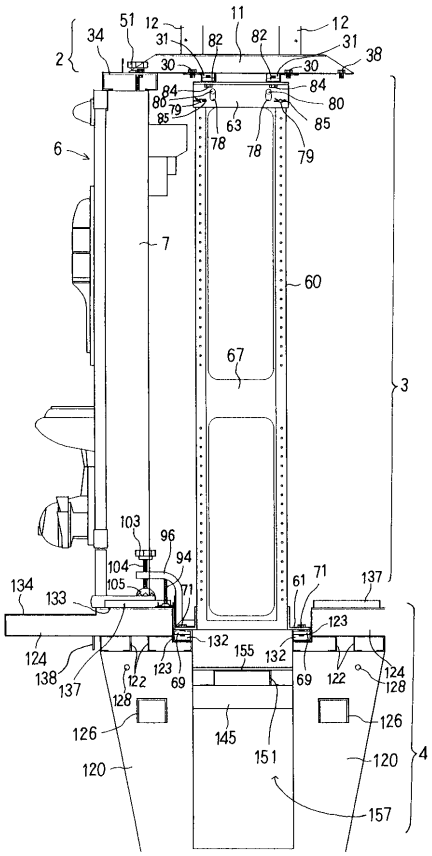
【図３】



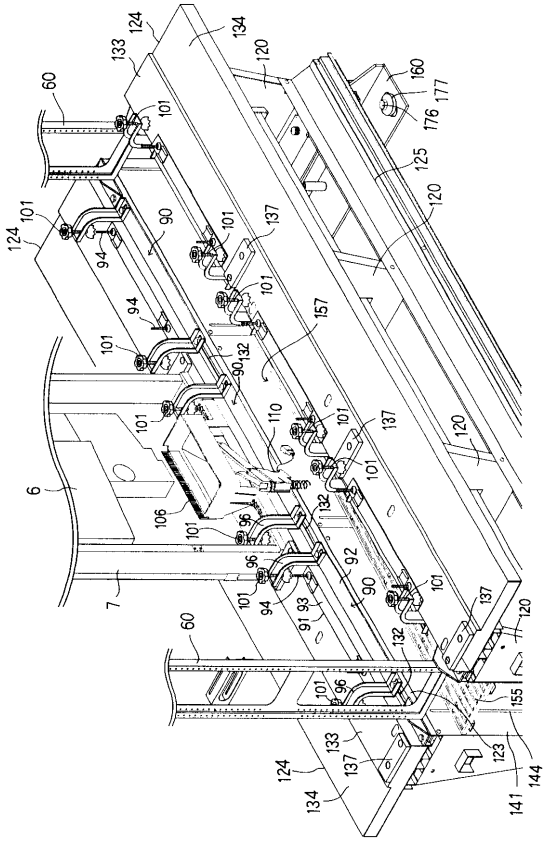
【図４】



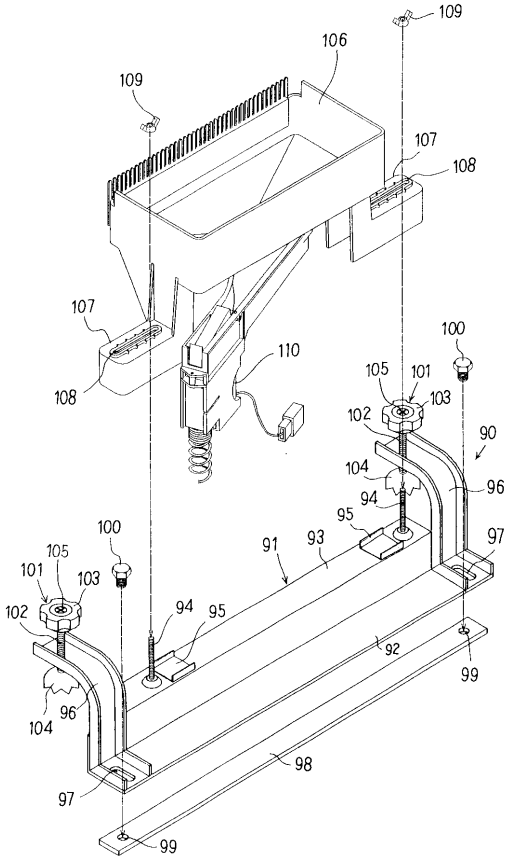
【図５】



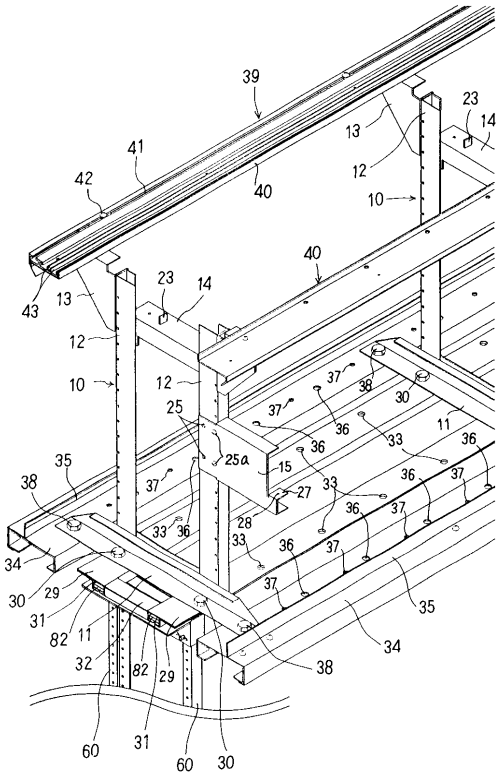
【図６】



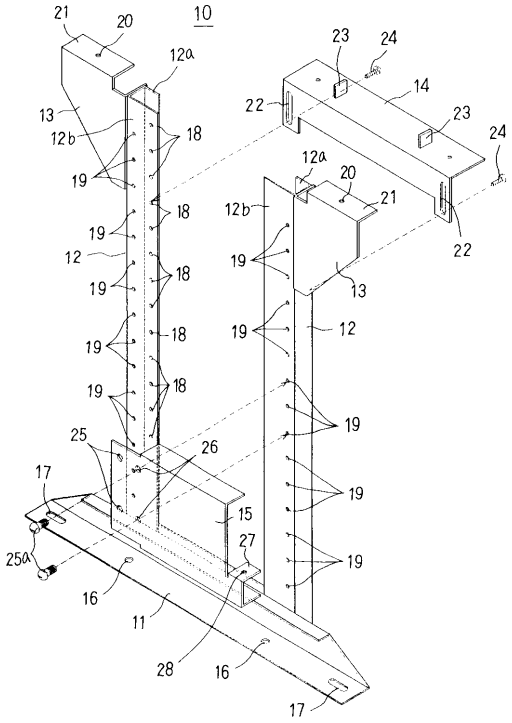
【図７】



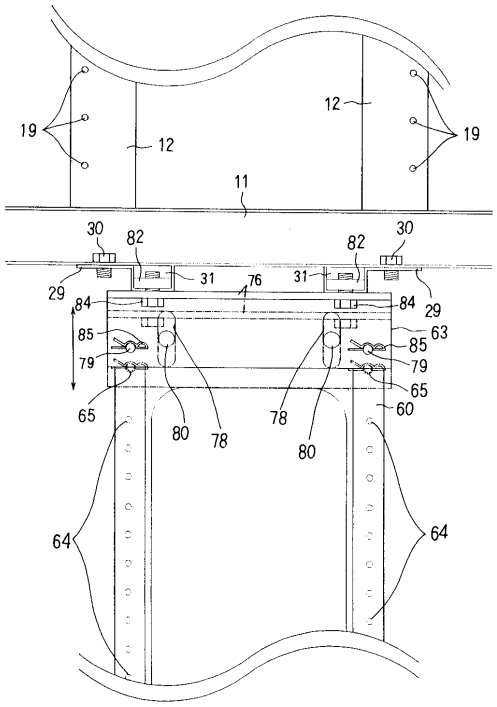
【図８】



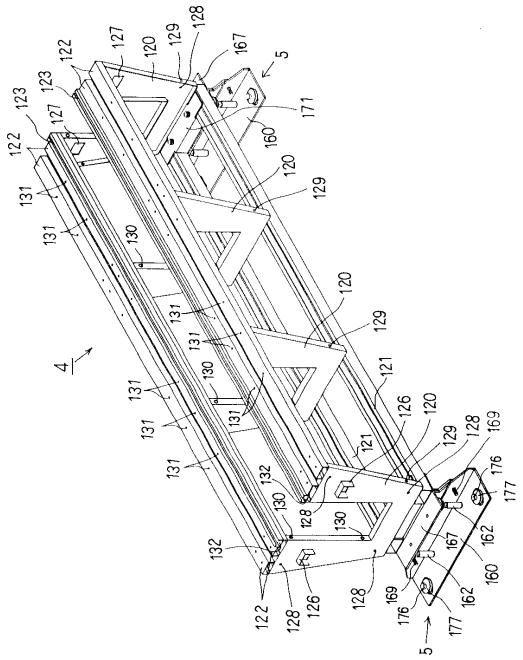
【図９】



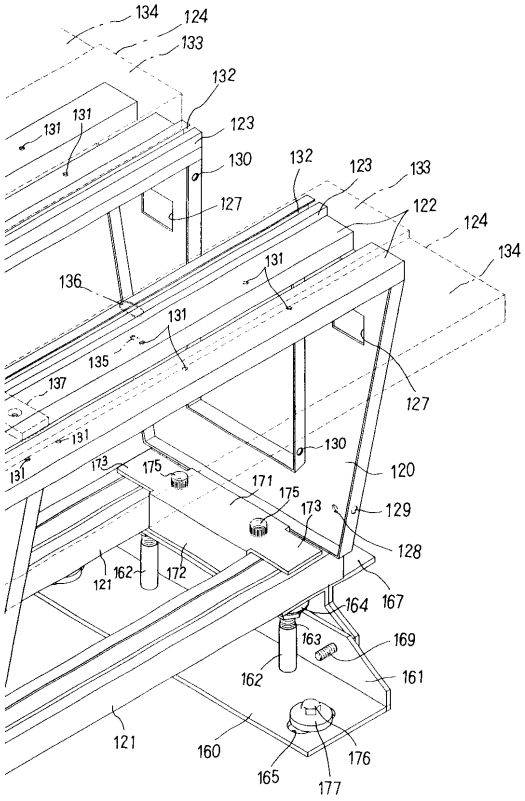
【図１０】



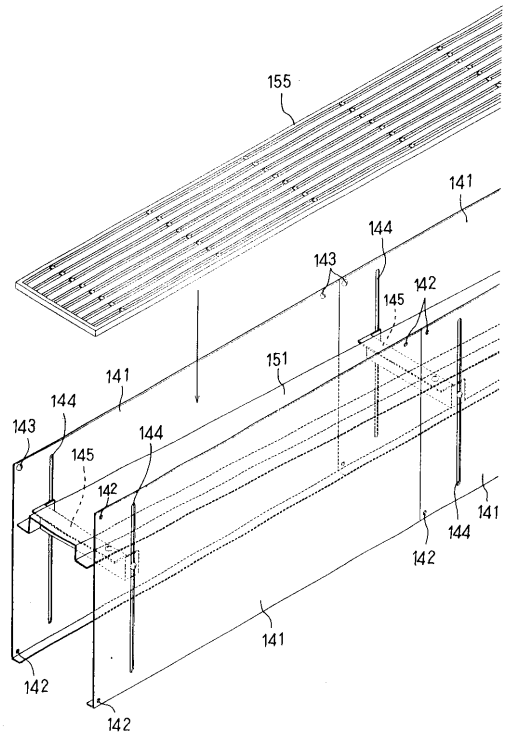
【図１１】



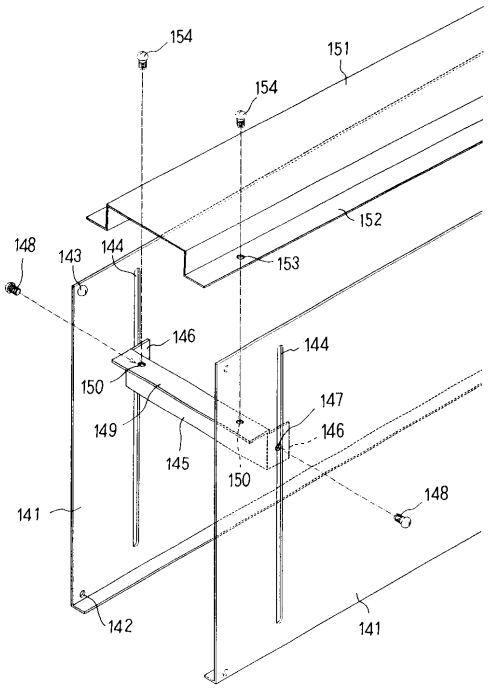
【図１２】



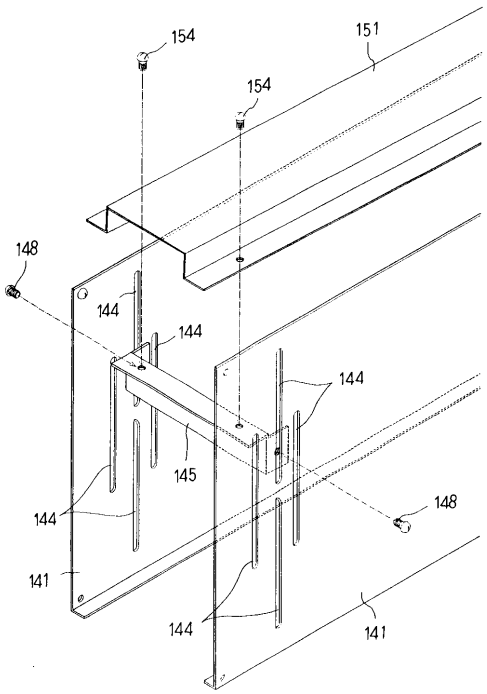
【図１３】



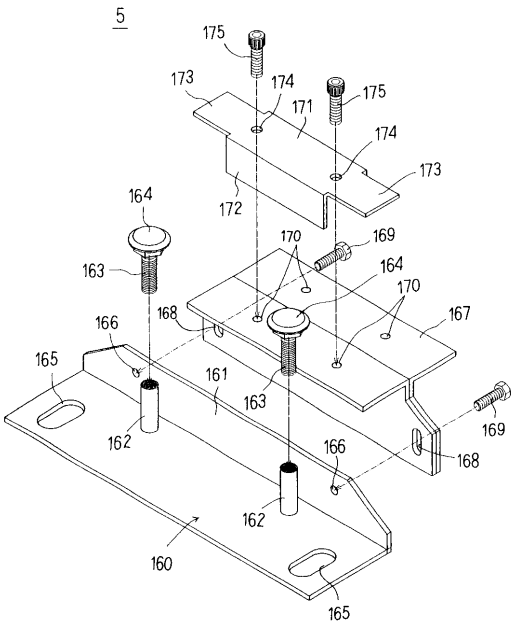
【図１４】



【図１５】


154
151
154
148
144
144
144
145
144
148
141
144
141

【図１６】


5
175
173
174
171
175
174
173
172
164
163
170
169
164
170
166
168
167
165
161
163
169
162
166
168
162
160
165

フロントページの続き

審査官　篠崎　正

(56)参考文献　特開平０７－１９４８３３（ＪＰ，Ａ）
特開平０５－１７７０５２（ＪＰ，Ａ）
実開平０３－０９２１４５（ＪＰ，Ｕ）
実開平０６－０２８９３１（ＪＰ，Ｕ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
A63F　7/02